

平成23年
第10回

女と男の一行詩

ひと ひと



応募者数 399名
応募総数 691点

最優秀賞

「男のくせに」「女のくせに」
癖にならんでその言葉

人にはそれぞれ個性、好み、特技があり、それを性別で差別したり、否定するのは良くないという想いをこめた詩です。

秋元真恵さん

優秀賞

いただきます。 父の温かむ、母ありがじひ。

母が仕事で帰りが遅いとき父が夜ご飯を作ってくれます。とても美味しく温かいご飯に私たちも母も笑顔で「いただきます」と父への感謝の気持ちを表しました。

木村保菜美さん

優秀賞

アナログと、一緒に消えろ 男女の差

二本瑞穂さん

入選

わたしだってドラゴンボールが
好きなんです

男の子向けのアニメでも私のようにドラゴンボールが好きな人がたくさんいると思って書きました。

河瀬悠里さん

入選

性別は身分を決める

ものじゃない

昔に比べて今は男女差別がなくなってきたいるがまだ少しあると思うので、男女関係なく全員が生活していければいいなと思ってこれを書きました。

川田幹也さん

入選

居ざが屋で 父はお茶飲み

母ビール

まだ入賞した実感はあまりないですが、すごく嬉しいです。我が家は作品の通りではありませんが、毎回でなくても、このような時があってもいいのではないかと思います。

木村奈都未さん

入選

声かけ、気配り、思いやり

夫婦の絆は 笑顔の挨拶！

男女共通の価値感が平凡化、形骸化している中で、日常の心構えとして相互が心がけて考動する事を共通認識として実行する意義を提言しました。

脇原仁さん